

科目名称:教育課程総論					
担当者名:岡田 優子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	1年前期	講義・演習	必修	1	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		24106316
授業概要:保育所保育指針及び幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の概要を理解し、保育内容の歴史の変遷を通して理解を深める。子どもやその集団の発達特性や発達過程を踏まえ、指導計画の作成、観察や記録の観点から修得し、保育内容と子ども理解との関わりについて学ぶ。					
到達目標:・保育目標、子どもの発達、保育の内容を関連付けて保育内容が理解できるとともに、保育の全体的な構造が理解できるようになる。・保育内容の歴史の変遷について理解できるようになる。 ・子ども理解を深め、興味や関心、実情に応じた具体的な指導の在り方を理解し、子どもの生活全体を通して養護と教育が一体的に展開することを保育実践につなげて習得できるようになる。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 ガイダンス、「保育内容」とは。戦後における保育内容の展開			子どもの頃の記憶に残る遊びや好きだった遊びをまとめる(30)		
第2回 保育の基本と保育内容を理解する(子どもになって保育内容を理解する)			事前に様々な遊びと保育内容との関連をまとめる。事後提出する(30)		
第3回 保育の基本と保育内容を展開する(グループワーク)			遊びが子どもの重要な学びであるという体験し、レポートにまとめる。事後提出する。(60)		
第4回 遊びや生活を通して学ぶ(実践記録をもとにディスカッションする)			事前に実践記録を目を通しておく(30)		
第5回 現場の保育体験もしくは、DVD からの、エピソード記録をとる			保育体験、もしくは DVD の感想をまとめ、提出する(40)		
第6回 領域と保育内容(グループワーク)			領域について調べてまとめる。グループワークに積極的に参加できるようにする(40)		
第7回 領域と保育内容を事例で学ぶ(グループワークとディスカッション)			5領域についての演習問題(事例)は考えをまとめる(40)		
第8回 指導計画の作成の理解			指導計画にはどのような計画があるか、評価の考え方等調べておく。事後提出する(30)		
第9回 養護と教育が一体的に展開する保育			養護と教育について事前に調べる。事後提出する(30)		
第10回 子どもの主体的性を尊重する保育(事例をもとにグループワーク・発表)			幼児の主体的な遊びを展開する事例を読み考えをまとめる(40)		
第11回 環境を通して行う保育(ディスカッション)			環境とは何か。子どもの育ちを保障する環境について考えをまとめ提出する(50)		
第12回 個と集団の育ちを支える保育			一人一人に応じた保育の重要性をまとめる。事後提出する(40)		
第13回 家庭や地域との連携を踏まえた保育(グループワークと発表)			小学校への接続をふまえた保育の重要性を考え、まとめる(40)		
第14回 多様な保育ニーズについて(グループでテーマを決めて話し合い、発表)			多様な保育の実態を調べ配慮や支援の在り方についてレポートをまとめる。事後提出する(50)		
第15回 手作り遊具の発表。まとめと保育内容の課題			子どもが楽しめる手作り遊具を発達に合わせたものを考え、事前に少しづつ作成し発表できるようにしておく(60)		
履修に必要な予備知識や技能:授業に参加する前に必ずテキストを読み、演習問題は考えをまとめておく。また初めて出会う用語の意味を調べる。授業後は、講義内容について復習をし、自己課題を見つけ探求する。					
課題に対するフィードバック:授業内外での課題やレポート、成果物等は点検・添削された後、次回以降の授業で返却されます。その際、講評します。復習の材料とする。					
評価方法・基準:定期試験 60%、小テスト・ミニレポート 20%、受講態度(取り組む姿勢・参加度)20%を総合的に評価する					
教科書:テキスト:「新しい保育講座4 保育内容総論」大豆生田啓友(ミネルヴァ書房)					
参考書:「幼稚園教育要領解説」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」、「保育所保育指針解説書」					
備考:テキスト以外にプリントや ICT 機器なども使用する。事前学習を行い、積極的に授業(グループワーク)に取り組んだり、課題提出日等のルールを守る。					
実務経験の内容・期間:保育士経験39年、そのうち保育園園長10年経験する。					